

2023年度点検・評価シート

- ・評価の視点【基礎要件●】は法令要件、その他基礎的要件の充足状況を判断する指針
【評価要件○】は基礎要件以外で、大学基準協会が大学基準に照らし定めた指針
- ・評価の視点に“※”が付されている場合は、大学基礎データ、基礎要件確認シート及び別途収集する根拠資料により、点検・評価し、適切性を判断してください。
- ・★のある欄は、必須記述欄です。ただし、該当なしと判断した場合は「なし」と記入してください。
- ・◆のある欄は、各点検・評価項目の内容について、問題点を記入してください。（ない場合は「なし」と記入）

I【現状】原則2023年5月1日現在の状況で回答してください。

対象部局	12 中国語学科	責任者	竹島 毅
基準4	教育課程・学習成果	自己評価	A
★基準4の自己評価の理由を簡潔に解説してください。			
<<回答>> 基準4についてその点検・評価項目と評価の視点について概ね満たしていると考えられるため。			
点検・評価項目(1)	4-1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。		
ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針） 中国語学科は、卒業に必要な単位を取得し、以下に示すような能力を備えていると認められる学生に、卒業の認定を行い、学士（中国語学）の学位を授与する。 1. 豊かな教養と専門的知識およびそれを活用する技能 (1) 中国語で自分の専門分野に関する内容について議論することができる程度の運用能力を修得している。 (2) 自ら課題を設定し、調査分析した結果を文章や口頭でわかりやすく論理的に表現できる知識と技能を修得している。 2. 他者との共同による問題発見・解決能力と、それを支える思考・判断・表現力 (1) 中国を中心とする華語圏の文化、社会、政治、経済等についての問題意識を持ち、自らの視点で考えをまとめ、発表することができる。 (2) ITスキルに関する知識を駆使して、必要な情報を収集・分析し、結論を導き出すことができる。 (3) 英語圏における文化、社会等についての問題意識を持ち、それらについて自分の意見を平易な英語で表現できる。 3. 自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感 (1) 中国を中心とする華語圏の文化、社会、政治、経済等に関する知識および中国語の表現力を修得した後も研鑽を続け、社会の変化に適応し、社会に貢献できる人材足り得る能力を有する。 4. 本学の建学の精神や本学の理念に対する理解 (1) 中国を中心とする華語圏の人々との交流や折衝において、多様な文化を理解し尊重する姿勢、物事を円滑に進める能力を発揮することができる。	変 更	有() 無(✓)	
評価の視点1 【基礎要件●】	上記の方針は、修得すべき知識、技能、態度等の学修成果が明示され授与する学位にふさわしい内容となっている。		
評価の視点2※ 【基礎要件●】	上記の方針を公表しており、媒体や表現の工夫等により、情報の得やすさや理解しやすさに配慮している。 根拠資料→A1-6-1Web サイト（大東文化大学の基本方針）、基礎要件確認シート7		
◆学位授与方針の内容や、公表の仕方について問題点があれば記述してください。			
<<回答>> 適切なものと考えています。			
点検・評価項目(2)	4-2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。		
カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針） 中国語学科は、卒業認定・学位授与方針に掲げる能力を修得させるために、以下のような内容、方法、評価の方法に基づき、教育課程を編成する。 1. 教育内容 (1) 1、2年次にはクラス担任制による責任を持った指導を行う。2年次より「中国語・社会（ビジネス）コース」と「中国語・言語（通訳翻訳）コース」に分かれ、前者のコースにおいては現代の中国を理解し中国語をビジネスに活用できる能力を修得させ、後者のコースでは中国語を深く掘り下げて学ぶことで、通訳翻訳のできる能力を修	変 更	有() 無(✓)	

<p>得させる。</p> <p>(2) いずれのコースにおいても、中国語ネイティブスピーカーの指導により、中国語の読む・書く・聞く・話す能力を確実に修得させる。それと同時に日中関係を視野に入れながら、日中経済動向、日中貿易関係および中国と関係の深い華語圏の社会文化に関する知識を修得させる。</p> <p>(3) 外国語科目としては1年次の英語を必修科目とし、2年次の英語は選択科目とする。全学共通科目のうち12単位を卒業に必要な選択必修科目とする。</p> <p>(4) 問題解決に必要な情報を収集・分析し発表することのできるITスキルを修得させる。</p> <p>2. 教育方法</p> <p>(1) 3、4年次には1、2年次に修得した基礎の上に、中国語の文献を深く読み込み、理解し、自分の考えをまとめた後は、それを中国語で表現できる能力を高めるための科目群を置く。</p> <p>(2) 3、4年次には、さらにゼミ教員による卒業研究指導により、情報を的確に収集し、集めた情報を正確に分析し、それをまとめて報告・討論できる能力と技術を修得させる。</p> <p>(3) 中国・台湾における短期留学(研修)や長期留学に参加することにより、中国語の実践的な語学力を向上させ、異文化理解に関する知識を修得させる。</p> <p>3. 評価方法</p> <p>(1) 学位授与方針で掲げられた能力の形成的な評価として、中国語学科における卒業要件達成状況、単位取得状況、GPA、外部客観テスト等の結果によって測定するものとする。</p> <p>(2) 学位授与方針で掲げられた形成的評価と比較して、その評価に届かない学生については、教員による個人面談を実施する。</p> <p>(3) ゼミを選択した学生については、4年間の総括的な学修成果として、ゼミ教員による卒業論文あるいはそれに代わるものの評価を行う。</p>	
評価の視点1 【基礎要件●】	上記の方針は、教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態など、教育についての基本的な考え方を明示している。
評価の視点2 【基礎要件●】	上記の方針は、学位授与方針に整合している。
評価の視点3※ 【基礎要件●】	上記の方針を公表しており、媒体や表現の工夫等により、情報の得やすさや理解しやすさに配慮している。 根拠資料→A1-6-1Webサイト(大東文化大学の基本方針)、基礎要件確認シート7
(DPとCPの各項目の番号を矢印で紐づけてください。)	
<p>DP1. (1) → CP1. (1) (2) (4)、CP2. (2)</p> <p>DP1. (2) → CP1. (1) (2) (4)、CP2. (1) (2)</p> <p>DP2. (1) → CP1. (2)、CP2. (1) (2)</p> <p>DP2. (2) → CP1. (4)、CP2. (2)</p> <p>DP2. (3) → CP1. (3)</p> <p>DP3. (1) → CP1. (2)、CP2. (3)</p> <p>DP4. (1) → CP1. (1) (2)、CP2. (3)</p>	
<p>★項目(2) 4-2DP1からDP4について、それぞれの内容がどのようにCPの内容に反映されているのか(あるいは教育課程のどこで具現化されるのか)、その連関について説明してください。</p> <p>以下の事例を参考に記述してください。※事例は過去のものであり、なおここではDP1のみ抜粋ですが続きがあります。</p> <p>・DP「1. 知識・技能」(1)に明示した、「日本の文学と言語・文化に関する基本的な知識」「専門的な知見」と、DP「1. 知識・技能」(2)の「文献や資料を的確に読解する」については、CP「1. 教育内容」(1)で、『日本文学史概説』『日本語学概説』などで体系的・通史的な知識や素養を身につけ』とされ、CP「1. 教育内容」(2)で『「日本文学講読」「日本語学講読」や各分野の「特殊講義」などで、特定の主題に関する専門的な知識を身につける。』と明示されている。</p>	
<p>《回答》</p> <p>・DP1(1)に明示した、「中国語で自分の専門分野に関する内容について議論することができる程度の運用能力の修得」は CP1(1)「総合中国語1AB(文型)」など CP1(2)「総合中国語1AB(会話)」「中国語コミュニケーション」「教養基礎演習」「中国へのアプローチ」など CP1(4)「ITリテラシー」 CP2(2)「中国言語情報演習」「中国社会文化演習」等で身につけられる。</p> <p>・DP1(2)に明示した「自ら課題を設定し、調査分析した結果を文章や口頭でわかりやすく理論的に表現できる知識と技能の修得」については</p>	

<p>CP1(1)「観光中国語」「ビジネス中国語」など</p> <p>CP(2)「総合中国語 1AB (会話)」「中国語コミュニケーション」など</p> <p>CP(4)「IT リテラシー」</p> <p>CP2(1)「講読」、「中国語時事文 1AB」など、</p> <p>CP2(2)「中国言語情報演習」「中国社会文化演習」などで身につけられる。</p> <p>・DP2(1)に明示した、「中国を中心とする華語圏の文化、社会、政治、経済等についての問題意識を持ち、自らの視点で考えをまとめ、発表することができる」については、</p> <p>CP1(2)「総合中国語 1AB (会話)」「中国語コミュニケーション」等</p> <p>CP2(1)「講読」、「中国語時事文 1AB」など</p> <p>CP2(2)「中国言語情報演習」「中国社会文化演習」等で身につける事ができる。</p> <p>・DP2(2)に明示した「IT スキルに関する知識を駆使して、必要な情報を収集・分析し、結論を導き出すことができる」については、</p> <p>CP1(4)「IT リテラシー」「ビジネス IT 演習」</p> <p>CP2(2)「中国言語情報演習」「中国社会文化演習」等で身につけられる。</p> <p>・DP2(3)に明示した、「英語圏における文化、社会等についての問題意識を持ち、それらについて自分の意見を平易な英語で表現できる」については、</p> <p>CP1(3)「総合英語 1」「英語コミュニケーション 1」などで身につけられる。</p> <p>・DP3(1)「自律的学習者として学び続け、社会に貢献する意欲と能力、社会の担い手としての使命感」に明示した、「中国を中心とする華語圏の文化、社会、政治、経済等に関する知識および中国語の表現力を修得した後も研鑽を続け、社会の変化に適応し、社会に貢献できる人材足り得る能力を有する」については、</p> <p>CP1(2)「総合中国語 1AB (会話)」「中国語コミュニケーション」など</p> <p>CP2(3)は国際交流センター主催の夏期短期研修および春期短期研修また一年間の長期留学等での学修の結果を「海外現地研修」などの科目として単位認定することで具現化している。</p> <p>・DP4(1)「本学の建学の精神や本学の理念に対する理解」に明示した、「中国を中心とする華語圏の人々との交流や折衝において、多様な文化を理解し尊重する姿勢、物事を円滑に進める能力を発揮することができる」については、</p> <p>CP1 (1)「観光中国語」「ビジネス中国語」など</p> <p>CP1 (2)「東アジア地域研究」「東南アジア地域研究」「インターンシップ実習」など</p> <p>CP2 (3) は国際交流センター主催の夏期短期研修および春期短期研修また一年間の長期留学等での学修の結果を「海外現地研修」などの科目として単位認定することで具現化している。</p>

◆教育課程の編成・実施方針の内容や、公表の仕方について問題点があれば記述してください。

<p>〈回答〉</p> <p>適切なものと考えています。</p>	
<p>点検・評価項目 (3)</p>	<p>4-3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。</p>
<p>評価の視点 1 ※</p>	<p>教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性を図っている。根拠資料→A1-1*学則、A4-43Web サイト シラバス</p>
<p>評価の視点 2 ※</p>	<p>学習の順次性に配慮した各授業科目の年次・学期配当をしている。根拠資料→B4-68Web サイト カリキュラムツリー</p>
<p>評価の視点 3 ※</p>	<p>専門分野の学問体系を考慮した教育課程を編成している。根拠資料→A4-12Web サイト カリキュラムマップ</p>
<p>評価の視点 4 ※</p>	<p>学習成果を修得させるために適切な授業期間を設定している。 根拠資料→A1-1*学則、B1-10-1~8 2023 年度 各学部履修の手引き</p>
<p>評価の視点 5 ※</p>	<p>単位制度の趣旨に沿った単位の設定をしている。根拠資料→A1-1*学則、基礎要件確認シート 9、10</p>
<p>評価の視点 6 ※</p>	<p>教育課程を編成する措置として、個々の授業科目の内容及び方法は適切に設定されている。 根拠資料→A4-13Web サイト 科目ナンバリング、A4-43Web サイト シラバス</p>
<p>評価の視点 7 ※</p>	<p>編成方針に基づき、授業科目を必修、選択等位置づけており履修の手引きに掲載している。 根拠資料→B1-10-1~8 2023 年度 各学部履修の手引き</p>
<p>評価の視点 8</p>	<p>初年次教育・高大接続に配慮した授業として、「プレイスメントテスト」などによるクラス編成や、基礎的な科目の内容を深める授業を実施している。</p>
<p>★項目 (3) 4-3①初年次教育・高大接続に配慮した授業について、根拠資料（該当するシラバス、履修の手引き該当ページなど）を用いて、概要を解説してください。</p>	
<p>〈回答〉</p>	<p>〈根拠資料〉</p>

<p>・1年次「教養基礎演習 AB」は、高校とは授業形態など異なる大学においては、自ら課題を設定し、調査して考えをまとめ、文章や口頭で分かりやすく論理的に表現することが求められることなどに関するスキルなどを修得する授業を展開している。</p> <p>・1年次「総合中国語 1AB（文型）」は英語プレイスメントテストを実施し、その成績により能力別の4クラスに分けた少人数クラスを編成し、クラス担任を配置している。大学での学習方法など1年生の悩みなどについてクラス担任がタイムリーに対応できる体制を構築している。</p> <p>・1年次「総合英語 1AB」「英語コミュニケーション 1AB」は、高校までの英語教育を継続し、大学の初年次においても能力を引き上げるための科目として位置付けている。</p> <p>・1年次「ITリテラシーAB」は、高校までの情報関連科目を継続し、大学の初年次においても能力を引き上げるための科目として位置付けている。</p> <p>・ある程度の中国語学習を行ってきた学生に対しては、「総合中国語 1A（文型）」等専門必修科目に「既修者クラス」を設け高大接続に配慮をしている。</p>		<p>12-C4-1：「教養基礎演習 A」シラバス、「総合中国語 1A（文型）」シラバス、「総合英語 1A」シラバス、「英語コミュニケーション 1A」シラバス、「ITリテラシーA」シラバス</p>
評価の視点 9 ※	<p>教養教育と専門教育を適切に配置している。</p> <p>根拠資料→B1-10-1~8 2023年度 各学部履修の手引き</p>	
評価の視点 10 ※	<p>学科の教育研究上の目的や課程修了時の学修成果と、各授業科目との関係を明確にしている。</p> <p>根拠資料→A4-12Web サイト カリキュラムマップ</p>	
評価の視点 11	<p>学生の社会的、職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を実施している。</p>	
<p>★項目 (3) 4-3②社会的、職業的自立を図るために必要な能力の育成として実施しているキャリア教育について、根拠資料（該当するシラバス、教育プログラムの場合はその制度が分かる資料など）を用いて回答してください。</p>		
<p>《回答》</p> <p>2021年度まで「新入生講座」を実施していたが、予算打ち切りとなり2022年より開催できなくなった。</p>	<p>《根拠資料》</p> <p>12-C4-2:「新入生講座開催のお知らせ」</p>	
<p>★項目 (3) 4-3③「DAITO BASIS」科目として推奨されている科目で、全学共通科目以外として推奨している学部開設の科目について、科目名を明記してください。また、その設定・選定の基準について説明してください。</p>		
<p>《回答》</p> <p>・科目名は「総合英語 1A・1B」（1年次担当、必修科目）である。国際的コミュニケーション能力の基礎力を確保する観点からこの科目を推奨している。</p>		
<p>★項目 (3) 4-3④当該部局のカリキュラム全体の編成と、授業科目の配置の特色について解説してください。</p>		
<p>《回答》</p> <p>(1)1年次は中国語基礎科目を4クラスに編成し、「総合中国語 1AB（文型）」ではクラス担任を設けている。</p> <p>(2)1・2年生は、前年度12月に実施した「中国語統一試験」の結果をベースに、次年度の中国語の能力別クラスを編成し、少人数教育を実施している。</p> <p>(3)2年次からビジネスコースと通訳翻訳コースに分けることにより、学生個々の能力を育成する教育を実施している。</p> <p>(4)3年次生以上を対象に「中国語資格対策講座 A/B」を開講し、資格対策の支援を行うカリキュラムとなっている。</p>		
<p>◆授業科目の開設や、教育課程の体系的な編成について問題点があれば記述してください。</p>		
<p>《回答》</p> <p>能力別のクラス編成により学生の能力に応じた中国語学習が行われている。しかしながら、コマ数削減の影響のため開講できる科目に限りがあり、中国語の基礎学力を養成すべき一年次に中国語を3コマしか提供できていない点は問題だと思われる。語学を習得するという観点から、特に一年次にさらに中国語の授業を提供する手当が必要だと思われる。</p>		
点検・評価項目 (4)	<p>4-4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。</p>	
評価の視点 1 ※	<p>学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るため、履修登録単位数の上限設定を実施している。</p> <p>【基礎要件●】 根拠資料→A1-1*学則、基礎要件確認シート 9</p>	
<p>★項目 (4) 4-4①履修登録単位数の上限設定について、一部の科目を対象外としている場合、単位の実質化を図るうえでどのような措置をとっているか回答してください。</p> <p>（注：「単位の実質化を図る措置」としては、教育課程上の配慮、授業時間外における学習を促進するための取り組みや、学習支援などです。いずれの場合もどのように取り組んでいるかを具体的に記述してください。）</p>		
<p>《回答》</p>		

1年間で48単位を上限としている。他方、教職課程関連科目、司書・司書教諭課程関連科目、社会教育主事課程関連科目及び学芸員課程関連科目に定める科目の単位を除いている。また、長期海外留学からの帰国学生、編入学生、転学部・転学科生については、教授会の審査・承認を経て、上限を超える履修登録を認めることがある。単位の実質化を図る措置として、当学科は少人数の演習授業が主となり、発表の場が常に設けられるため、授業時間外における学習を促進する取り組みを図るだけでなく、東松山に所属する教員が中心となって「中国語発音クリニック」を実施し、さらに教育補助員を活用し学習支援を行うなど授業外の学習を促進する取り組みを行っている。	
★項目(4) 4-4②規則上、長期海外留学からの帰国学生、編入学生、転学部・転学科生については、教授会の審査・承認を経て、上限を超える履修登録を認めることができる（履修登録単位数の上限を超えることを承認した教授会議事録が必要）。とあります。この場合も単位の実質化を図るうえでどのような措置をとっているか回答してください。	
<<回答>> ・該当する学生に対して、中国語学科が単位振替作業を行い、外国語学部教授会での審査・承認を得ている。帰国学生においては留学先大学で取得した単位と中国語学科科目との単位振替、編入学生においては前学校での取得単位と中国語学科科目との単位振替、転学部・転学科生においては全学共通科目・中国語学科科目などとの単位振替を行っている。しかし、実態としては、上限を超える履修に届く対象学生はみられていない。	<<根拠資料>> 12-C4-3：第三回学科協議会資料「議案4（3）2022年度中国語学科単位振替長期留学のためのタイムスケジュール」
★（上限設定の対象外としている科目を履修登録している学生数を記入してください。） ①諸資格科目（教職課程科目、その他諸資格科目、副専攻等）履修学生数：16人 ②長期海外留学終了者 学生数：0人 ③編入生 学生数：1人 ④転学部・転学科生 学生数：0人 ⑤日本語教師養成課程副専攻修了者 学生数：3人	<<根拠資料>> 12-C4-4：「2023年度諸資格登録者」 、「2022年度日本語教師養成課程合格結果について」
評価の視点2※ シラバスの内容（到達目標・学修成果の指標・授業内容及び方法・授業計画・授業準備のための指示・成績評価方法及び基準等の明示）に基づいた授業を実施し、整合性が図れている。 根拠資料→A4-43Web サイト シラバス、B6-21-1「学生による授業認識アンケート」	
評価の視点3※ シラバスの記載内容の第三者チェックの実施結果を教授会で報告、検証している。 根拠資料→B4-40 シラバスチェック実施報告、B4-42 シラバスチェック体制	
評価の視点4 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法を取り入れている。	
★項目(4) 4-4③学生の主体的参加を促す授業について、以下(1)(2)(3)(4)に該当する事例を根拠資料（該当するシラバス、履修の手引き該当ページなど）を用いて解説してください。	
(1)主体的な学び（演習、実習、フィールドワークなど）の事例	
<<回答>> ・ゼミ「中国言語情報演習1A」では、学生自ら中国語学習上の問題点を把握、解決方法を析出、その結果をプレゼンテーションにより他のゼミメンバーに共有する主体的な学びを行っている。 ・ゼミ「中国社会文化演習1A」では、ゼミ生が関心をもつテーマについて、学生自らまたはグループが関連情報を収集・整理し、論点を整理し、プレゼンテーションを行い、ゼミメンバーに共有する主体的な学びを行っている。また、他のゼミでは紙芝居を作り公開している。	<<根拠資料>> 12-C4-5：「中国言語情報演習1A」シラバス、「中国社会文化演習1A」シラバス、大学 Web サイト記事「山内ゼミ 紙芝居完成！」
(2)インタラクティブ（双方向）な授業展開のための少人数授業の事例	
<<回答>> ・1年次「総合中国語1AB(会話)」、2年次「総合中国語2AB(会話)」においては、15名前後の少人数クラスを構成し、ネイティブスピーカーの指導により、中国語を双方向で実践的な授業運営を行っている。	<<根拠資料>> 12-C4-6：「総合中国語2A(会話)」シラバス
(3)教員・学生間や学生同士のコミュニケーション機会の確保の事例	
<<回答>> ・教員・学生間のコミュニケーションの機会の確保についてはオフィスアワーを設定する事で確保に努めている。「日中比較文化概論」では教員及び学生同士のディスカッションの場を多く設け、グループワークを課すことで教員・学生間更には学生同士のコミュニケーションの機会の確保に努めている。	<<根拠資料>> 12-C4-7：「日中比較文化概論A」シラバス、教授会資料「外国語学部オフィスアワー日程表」
(4)授業方法として、グループ活動の活用の事例	
<<回答>>	<<根拠資料>>

<p>・ゼミ「中国社会文化演習 2A」では、ゼミ生が関心をもつ中国経済に関するテーマについて、学生自らまたはグループが関連情報を収集・整理し、論点を整理し、プレゼンテーションを行い、ゼミメンバーに共有する主体的学びを行っている。</p>		12-C4-8:「中国社会文化演習 2A」シラバス
<p>(5)効果的な授業方法について上記(1)～(4)以外の事例</p>		
<p>《回答》</p> <p>・専門必修科目「総合中国語 2A (会話)」はネイティブ教員による直接法の授業を行う事で、中国語で発想する感覚を身につけ、より高度な中国語の運用ができるように授業を展開している。</p>		<p>《根拠資料》</p> <p>12-C4-9:「総合中国語 2A (会話) シラバス</p>
評価の視点 5	学習の進捗と学生の理解度の確認	
<p>★項目 (4) 4-4④授業を行ううえで、学習の進捗と受講する学生の理解度の確認をするために、当該部局としてどのような措置を講じているか、回答してください。</p>		
<p>《回答》</p> <p>1・2年生を対象に、学生の学習の成果と到達度を測るために、毎年12月に「中国語統一テスト」を実施している。実施日に、対象学年の学生全員が集まり、一斉にテストを実施する。その結果を学科の全教員が共有し、学生の学習理解度を把握し、翌年度の授業に反映させる。また、テスト結果に基づいて、翌年度の「総合中国語 2A (文型)」などの専門必修科目において能力別クラス編成を行っている。</p>		
評価の視点 6※	<p>授業の履修に関する指導、その他効果的な学習のための指導 (履修登録に関するガイダンスやオリエンテーションなど適切な履修指導を実施している(オンラインも含む))。根拠資料→B4-69 履修登録に関するガイダンスやオリエンテーション実施要項、(オンラインの場合はWeb サイトも可→別紙の備考に URL 記入)</p>	
評価の視点 7※	<p>授業外学習に資する適切なフィードバックや、量的・質的に適当な学習課題の提示 根拠資料→A4-43Web サイト シラバス</p>	
<p>★項目 (4) 4-4⑤オンライン教育も含めて、授業外学習に資するフィードバックの方法や、量的・質的に適当な学習課題を提示しているか、どのように確認していますか。その方法などについて根拠資料を用いて回答してください。</p>		
<p>《回答》</p> <p>「中国語通信文 AB」では授業で学習した内容について、授業外で学習するための確認テストを配布し、翌週授業の冒頭でその解答と解説を行っている。</p>		<p>《根拠資料》</p> <p>12-C4-10:「中国語通信文 AB」確認テスト</p>
評価の視点 8	授業形態によって1授業あたりの学生数について配慮している。	
<p>★項目 (4) 4-4⑥授業形態(講義、実習、演習)によって、1授業当たりの学生数を設定している場合、授業形態別に事例を回答してください。(例:演習科目、実習科目は少人数(原則10名以下)、大規模講義科目は原則200名まで、など)</p>		
<p>《回答》</p> <p>・1年次・2年次必修科目「総合中国語(文型)」「総合中国語(語彙)」「総合中国語(会話)」は4クラス編成に設定しているため、1クラスあたり平均17名前後の学生数で構成されている。</p>		
評価の視点 9	学習を活性化するための学習支援ツールや授業外学習(予習・復習)を奨励する取り組みを実施している。	
<p>★項目 (4) 4-4⑦学習支援ツールや授業外学習(予習・復習)を奨励する取り組みについて、記述してください。</p>		
<p>《回答》</p> <p>・教育補助員による中国語学習の支援、さらには学科独自で中国語検定試験の補助を行う事で授業外学習を奨励している。</p> <p>・外国語学会中国語部会の協力の下、新入生に中国語の辞書とUSBを配布し学習支援を行っている。</p> <p>・弁論大会や暗誦大会といった中国語に関するコンテストに出場する学生に対し、コンクール支援・指導委員と教育補助員とが協力をして支援を行う体制を取っている。</p>		<p>《根拠資料》</p> <p>12-C4-11:大学Web サイト記事「TAによる中国語学習のお手伝い」、2021年度第12回学科協議会資料報告「(承認)5 2021年度中国語検定受験状況報告」、第11回中国語学科協議会資料「議案3①中国語学科各種委員」, 「2023 中国語学科新入生へのお知らせ(既修者クラス選抜・オリエンテーション実施について)」</p>
<p>◆学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための措置について問題点があれば記述してください。</p>		
<p>《回答》</p>		

特になし	
点検・評価項目(5)	4-5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。
評価の視点1※ 【基礎要件●】	<p>成績評価及び単位認定を適切に行うための措置として以下を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単位制度の趣旨に基づく単位認定 ・既修得単位認定等の適切な認定 ・GPAによる成績評価 ・成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置 ・卒業・修了要件の明示 ・成績評価及び単位認定に関わる全学的ルールの設定その他全学内部質保証推進組織の関わり <p>根拠資料→A1-1*学則、基礎要件確認シート 10,12、B4-74 オンライン教育に鑑み成績評価の公正性、公平性を担保するための措置を示す資料</p>
評価の視点2※ 【基礎要件●】	<p>学位授与を適切に行うための措置として以下を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学位論文審査がある場合、学位論文審査基準の明示・公表【修士・博士】 ・学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するための措置 ・学位授与に係る責任体制及び手続の明示 ・適切な学位授与 ・学位授与に関わる全学的なルールの設定その他全学内部質保証推進組織等の関わり <p>根拠資料→A1-1*学則、A4-36*学位規則、基礎要件確認シート 10,12</p>
◆成績評価、単位認定及び学位授与について問題点があれば記述してください。	
<<回答>> 特になし	
点検・評価項目(6)	4-6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。
評価の視点1※ 【評価要件○】	<p>学位課程の分野の特性に応じた学修成果を測定するための指標（特に専門的な職業との関連性が強いものにあっては、当該職業を担うのに必要な能力の修得状況を適切に把握できるもの。）を設定している。</p> <p>※指標は定量的指標、定性的指標を複数組み合わせ設定することが望ましい。</p> <p>根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果</p>
評価の視点2※ 【評価要件○】	<p>学生の学習成果の測定方法を開発している。</p> <p><<学習成果の測定方法例>></p> <ul style="list-style-type: none"> ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取 <p>根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果</p>
★項目(6) 4-6①全学部・学科、研究科・専攻で共通設定している「DPに示す学習成果（能力や資質）」「学生アンケートや調査」以外で、部局独自として設定している学習成果の測定をするための指標と、その測定方法をすべて記述してください。	
<<回答>> 学科協議会において、留学率・退学率等の情報を確認共有し、教育活動に資するべく話し合いを行った。	<<根拠資料>> 12-C4-12 : 2022年度第14回学科協議会資料「報告（承認）3-1 各学科・研究科の評価指標の中間報告について（抜粋）」
★項目(6) 4-6②学習成果を測定した結果（共通設定と、独自設定含む）について代表的事例を回答してください。また、全ての測定結果を根拠資料として提出してください。	
<<回答>> 学科協議会において学生支援委員より「学生認識／行動調査 2021」の設問「授業への平均的な出席状況」の数値 8.64 が紹介され、その結果を活用する方策について提案があり、了承された。	<<根拠資料>> 12-C4-13 : 2022年度第14回学科協議会資料「報告（承認）3

		-2 評価指標の活用（上田先生）
★学習成果の指標と測定方法に関する課題や長所などを記述してください。		
<<回答>> 統一した試験の実施により個々の学生の学科内での中国語力が客観的に測れるだけでなく、個々の学生の一年間の成長度も測ることができ、その結果にもとづき適切な指導を行うことができる。		
★学習成果の測定結果の分析方法に関して課題や長所などを記述してください。		
<<回答>> 統一試験は学科独自のものであり学科内での学生の中国語力について客観的に測ることができる点は長所と言えようが、全国的なものではないため学内の中国語を専門に学ぶ学生や他大学の学生との比較などができないという課題がある。		
点検・評価項目(7)	4-7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取組を行っているか。	
評価の視点1※ 【評価要件○】	適切な根拠(資料、情報)に基づく定期的な点検・評価を実施している。 ・学習成果の測定結果の適切な活用 根拠資料→B4-70 学習成果の測定指標と測定方法及び測定結果、B2-51 2023年度点検・評価シート、B2-52 会議録(または準ずるメール記録)：(開催日) 2023年度自己点検・評価について	
評価の視点2 【評価要件○】	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取組を行っている。	
★項目(7) 4-7①学習成果測定の実績と、実際の測定結果にもとづいた教育改善の取り組み状況を、具体的に回答してください。 他大学事例：		
<ul style="list-style-type: none"> 論文やプレゼンテーションなど成果報告の機会が広がり、その開催方法も交流や競争性を取り入れた場へと展開している。 「学生の授業に関する調査」結果に対して、授業担当者はコメントや具体的な改善策を公表している。 英語に関する学習成果把握の取り組みとして、全学年対象の英語アチーブメントテストの結果を英語スコア管理システムにより一元的に管理しFD部会でデータの検証を行い英語教育の改善に取り組んでいる。 論文中間発表や論文審査基準の結果をもとに、カリキュラムとその内容、授業方法を自己点検し、特に博士論文は、助成制度を設けているため学術的水準の維持、向上に繋げている。 		
<<回答>> 特になし		<<根拠資料>> 12-C4-14：
★項目(7) 4-7②改善・向上に向けてこれまでに取り組んだこと、現在取り組んでいることがあれば、具体的に回答してください。 2019年度以降の取り組みも含めて記述してください。		
<<回答>> 特になし		<<根拠資料>> 12-C4-15：

II 現状を踏まえ、長所・特色として特記する事項（工夫していること）を、意図した成果（目標）を明確にして記述してください。

※注：前年度の取り組みに限らず、過去から継続している事項も含める

長所・特色	12月に実施される「中国語統一試験」によって学生たちの学修状況の把握につながり、個々の学生の能力に応じた教育につながっている。また、「発音クリニック」や「教育補助員の中国語学習のお手伝い」等により授業外の学習環境の整備に努めているほか、中国語検定の受験料補助により検定試験を受験することにより検定試験の可否によって学習成果を可視化できるように取り組んでいる。
-------	---

III 今回の点検・評価の結果、明らかになった新たな問題点や課題について、今後の方針や計画を含めて記述してください。

※注：複数記述可、ただし2023年度事業計画としてアクションプランを策定しているものは除く

問題点・課題	
--------	--

IV 【改善計画（事業計画）】

カテゴリ	計画	B票№ or	改善計画	内容（改善を要すると判断した根拠）	目標の評価指標	目標値	年度計画
------	----	-----------	------	-------------------	---------	-----	------

	番号	開始年度	(アクションプラン)				
①	5	2022	(中国語学科) ダブルディグリー の活性化	ダブルディグリー参加者を複数名派遣する。		A(100%)：参加者数 2名以上 B(80%)：参加者数1 名	2023：A

V【内部質保証委員会による点検・評価】

2022年度<所見>
<p>学生の主体的参加を促す授業については、ゼミ「中国言語情報演習1A」等、様々な授業で、積極的に展開されており、シラバスからも工夫が見られることは評価できる。2年次からビジネスコースと通訳翻訳コースに分けるなど、語学のクラスを外部テストを利用した習熟度制を導入するなど、学生の多面的要求に沿ったカリキュラム展開がされていることは評価できる。また、教科書に関しては「統一教科書会議」を複数回開催し、翌年度の教科書を変更するなど、学生のレベルアップに向けた対策を講じるなど、授業のために常に振り返りと改善を行なっていることは非常に評価できる。</p> <p>また、2021年度に学習成果の評価指標を定めており、評価の指標は、学位授与方針（DP）に示した学習成果の積み上げ（能力の積算）、学習成果の測定を目標とした学修行動調査等、GPA評価、留学率、退学率、卒業率、進級率、就職率、進学率としている。活用としては、カリキュラムの検証、DPに示した学習成果（能力の積算）との検証、学修支援内容の検討、としている。問題点の記述欄にある「入門、初級段階における発音・語彙評価指標及び測定方法」「中国語習得のためのルーブリック」は、評価指標として設定されていないので、整合させる必要がある。</p> <p>また、外部試験のアンケート調査による測定結果も加味して活用し、教育効果を検証できれば、より高度の学習成果の可視化と改善が見込まれる。</p> <p>これらの測定結果は今後、基準4の点検・評価の際の根拠資料として提出することになる。今後、測定結果を活用した改善・向上への取り組みが望まれる。</p>
2023年度<所見>
<p>学科の学位授与方針を基に教育課程は組まれており、カリキュラムツリーにおいても各科目との関連が明確であり、評価できる。12月に実施される「中国語統一試験」によって学生たちの学修状況の把握がされ、授業内容など個々の学生の能力に応じた教育につなげていることは、学修成果を可視化し、達成目標を明確にして活用している事となり、高く評価できる。学習成果の測定実績と実際の測定結果に基づいた教育改善の取り組みを行っているように思われるので、学科で共有して項目(7)で記入していただくと良い。なお、根拠資料として学科協議会資料は提出されているが、学科協議会議事録が提出されていない。次年度からは関連する議事録と資料の双方をご提出願いたい。</p> <p>2023年度事業計画として「ダブルディグリー参加者を複数名派遣する。」とされており、すでに目標値の2名に対して1名を実現しており、初年度としてよい成果であると思われる。今後、計画が進捗されることを期待する。</p>

◆評価の基準について

※各基準の「自己評価」は、各部署の判断に委ねられます。なお、青字部分は、本学としての解釈です。

S	<p>大学基準に照らして極めて良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが卓越した水準にある。</p> <p>(評価の視点に対して、クリアしており、さらに向上させるための取り組みを行っている、または、他部局の参考となるような特色ある取り組みを行っている場合)</p>
A	<p>大学基準に照らして良好な状態にあり、理念・目的（教育研究上の目的）を実現する取り組みが概ね適切である。</p> <p>(評価の視点に対して、クリアしている状況と判断する場合)</p>
B	<p>大学基準に照らして軽度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けてさらなる努力が求められる。</p>
C	<p>大学基準に照らして重度な問題があり、理念・目的（教育研究上の目的）の実現に向けて抜本的な改善が求められる。</p>

<注>「大学基準」は大学基準協会「大学評価ハンドブック」を参照のこと。

解説にある「大学は云々・・・」については、学部、研究科等の現状に置き換える。

基準 4 教育課程・学習成果**【大学基準】**

大学は、自ら掲げる理念・目的を実現するために、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。また、教育課程の編成・実施方針に則して、十分な教育上の成果を上げるための教育内容を備えた体系的な教育課程を編成するとともに、効果的な教育を行うための様々な措置を講じ、学位授与を適切に行わなければならない。さらに、学位授与方針に示した学習成果の修得状況を把握し評価しなければならない。

(解説)

大学は、その理念・目的を実現するために、授与する学位ごとに、修得すべき知識、技能、態度など当該学位にふさわしい学習成果を示した学位授与方針を定め、公表しなければならない。また、学位授与方針に基づき、教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を示した教育課程の編成・実施方針を定め、公表しなければならない。

大学は、学士課程、修士課程、博士課程及び大学院の専門職学位課程のいずれの学位課程にあっても、法令の定めに加え、自ら定める教育課程の編成・実施方針に基づいて授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しなければならない。その際、学術の動向や、グローバル化、情報活用の多様化その他の社会の変化・要請等に留意しつつ、それぞれの学位課程における教育研究上の目的や学習成果の修得のためにふさわしい授業科目を適切に開設する必要がある。また、学問の体系などを考慮するとともに、各授業科目を大学教育の一環として適切に組合せ、順次性に配慮し効果的に編成する必要がある。

大学は、教育課程の編成・実施方針に基づき、授業内外における学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じなければならない。その一環として、適切なシラバスを作成するとともに履修指導を適切に行い、また、授業や研究指導の計画に基づいて教育研究指導を行うほか、授業形態や授業内容、授業方法に工夫を凝らすなど、十分な措置を講ずることが必要である。

大学は、履修単位の認定方法に関して、いずれの学位課程においても、各授業科目の特徴や内容、授業形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿った措置を採ることが必要である。また、教育の質を保証するために、あらかじめ学生に明示した方法及び基準に則った厳格かつ適正な成績評価及び単位認定を経て、適切な責任体制及び手続によって学位授与を行わなければならない。

大学は、学位授与方針に示した知識、技能、態度等の学習成果を学生が修得したかどうかを把握し、評価することが必要である。そのために、学習成果を様々な観点から把握し評価する方法や指標を開発し、それらを適用する必要がある。

大学は、教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価し、その結果を改善・向上に結びつける必要がある。その際、把握し、評価した学生の学習成果を適切に活用することが重要である。